

特集：リサーチ・ナビ—調べものに役立つWebサービス— その2

アジア諸国の情報をさがす

渡部 淳

1. はじめに

2009年5月、リサーチ・ナビによるアジア情報発信サービスが始まった。国立国会図書館関西館アジア情報課が担うアジア情報発信サービスは、これまで独自の発展を遂げてきた。リサーチ・ナビによるアジア情報発信サービスについて紹介する前に、まずリサーチ・ナビ以前のアジア情報室ホームページについて、簡単に振り返っておきたい。

2002年4月、国立国会図書館に関西館が設置され、それまで東京本館で行ってきた国立国会図書館のアジア情報発信サービスは、関西館アジア情報課が担うことになった。同年10月、国立国会図書館関西館の開館と同時に、アジア情報室が開室。アジア情報課は、国立国会図書館ホームページ内に「アジア情報室ホームページ」を開設し、アジア情報発信機能の強化に力を入れた。

開設当初のアジア情報室ホームページは、「利用案内」「資料の検索」「情報の調べ方（FAQ）」「リンク集」「海外複写サービス」という5つのコンテンツで構成されていた。

「情報の調べ方（FAQ）」では、カウンターや文書などでのレファレンス蓄積を基に、よく尋ねられる質問を約30項目取り上げ、検索方法や資料を紹介した。「リンク集」は、アジアの国・地域別の議会・行政機関、図書館、大学、研究機関等へのリンクを集合させたもので、「AsiaLinks」（詳細は本稿「4. AsiaLinks—アジア関係リンク集—」で後述）の原型となった。

2004年1月、アジア情報室ホームページは大規模なリニューアルを実施した。文字コードにUTF-8を採用し、簡体字やハングルなどのアジア言語文字の表示を可能にした。さらにアジア情報室に開架している雑誌や新聞の一

覧を掲載したり、アジア情報課の広報誌『アジア情報室通報』を掲載した「刊行物」などの新しいコンテンツを追加した。

2005年3月には、国内のアジア関係資料所蔵機関を一覧できる「アジア情報機関ダイレクトリー」（詳細は本稿「5. アジア情報機関ダイレクトリー」で後述）の公開を開始した。アジア情報課はこういった様々なコンテンツの提供を通じて、アジア情報発信サービスの拠点としての役割を果たしてきた。

そして2009年、アジア情報室ホームページの各コンテンツはリサーチ・ナビに移行し、リサーチ・ナビによるアジア情報発信サービスが開始された。これにより、利用者はより便利にアジア諸国関連情報へアクセスできるようになった。

では、リサーチ・ナビ「アジア諸国の情報をさがす」のページを紹介していこう。リサーチ・ナビのトップページ（図1）「しらべるヒント」から「アジア諸国関連」をクリックすると、関西館アジア情報室のページ「アジア諸国の情報をさがす」（図2）にアクセスできる。

リサーチ・ナビへようこそ

「本をさがす」

国立国会図書館にあるかさがす

- [国立国会図書館にある本をさがす](#)
- [アジア諸言語の本をさがす](#)
- [明治・大正時代の本を読む](#)
- [江戸時代以前の本、錦絵、漢籍を見る](#)
- [児童書\(昭和30年代以前のもの\)を読む](#)
- [他の図書館にある本も含めてさがす](#)

本の種類からさがす

- [図書](#)
- [雑誌](#)
- [新聞](#)
- [規格・博士論文・テクニカルレポート](#)
- [江戸時代以前の本、錦絵、漢籍](#)
- [児童書](#)
- [AV資料\(音楽、映像\)](#)
- [統計](#)
- [地図](#)

「しらべるヒント」

分野	カバーする内容
科学技術・医療	技術・工学/化学/医療/その他自然科学
経済、社会、教育	経済/金融/各種産業の動向/スポーツ/教育/社会問題
政治、法律、行政	政治(国会、地方議会)/法令集/政府刊行物
人文科学	哲学、宗教/歴史、地理/芸術、美術/言語、文学
アジア諸国関連	中国・韓国などのアジア全域(日本を除く)/中東・北アフリカ

しらべるためのツールあれこれ

- [都道府県立図書館等にある本をさがす](#)
- [様々な機関にある本をよむ](#)
- [児童書をさがす](#)
- [国会会議録をしらべる](#)
- [調べ方案内](#)

国立国会図書館のデータベース一覧はこちら

図1 リサーチ・ナビトップページ (<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>)

アジア諸国の情報をさがす

アジア情報室の利用案内	所蔵資料の概要	アジア情報の調べ方案内	AsiaLinks	アジア情報機関ダイレクトリー	刊行物	アジア情報室について
-----------------------------	-------------------------	-----------------------------	---------------------------	--------------------------------	---------------------	----------------------------

本や雑誌の所蔵を調べる

- [アジア言語OPAC](#)
国立国会図書館が所蔵するアジア言語資料を検索できます。[パンフレット](#) [PDF:340KB]
- [NDL-OPAC](#)
国立国会図書館が所蔵する日本語、欧米言語資料を検索できます。
- [国立国会図書館所蔵アジア関係資料の検索](#)
国立国会図書館が所蔵する、アジア関係資料の検索方法を紹介しています。
- [アジア情報室所蔵資料の概要](#)
開架・継続受け入れの雑誌・新聞のタイトルリストはこちらです。

調べ物をする

- [調べ方案内](#)
アジア各国の統計の調べ方など、テーマごとに調べるためのツールや特徴ある資料を紹介しています。
- [AsiaLinks-アジア関係リンク集](#)
アジア各国のウェブサイト为国・地域別、機関別、テーマから探せるリンク集です。[パンフレット](#) [PDF:344KB]
- [アジア情報機関ダイレクトリー](#)
日本国内のアジア関係資料、アジア言語資料を所蔵する機関のダイレクトリー(名鑑)です。[パンフレット](#) [PDF:378KB]
- [レファレンス](#)
アジアに関するレファレンスサービスの利用方法(来館、電話、文書)を紹介しています。
- [パンフレット](#)
アジアに関する調べものに役立つパンフレットを掲載しています。

図2 アジア諸国の情報をさがす (<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/>)

「アジア諸国の情報をさがす」は、以下の7つのコンテンツで構成されている。

- ・アジア情報室の利用案内
- ・所蔵資料の概要
- ・アジア情報の調べ方案内
- ・AsiaLinks—アジア関係リンク集—
- ・アジア情報機関ダイレクトリー
- ・刊行物
- ・アジア情報室について

本稿では、この中から、①所蔵資料の概要、②アジア情報の調べ方案内、③AsiaLinks－アジア関係リンク集－、④アジア情報機関ダイレクトリーの4つのコンテンツを取り上げ、事例を交えながら、アジア諸国の有用な情報の調べ方を紹介する。

2. 所蔵資料の概要

「所蔵資料の概要」(図3)のコンテンツは、アジア情報室所蔵資料の概要や検索方法を紹介するとともに、アジア情報室で開架している雑誌・新聞のタイトルリストを掲載している。

トップ>アジア諸国の情報をさがす>所蔵資料の概要>所蔵資料の概要

アジア情報室 の利用案内	所蔵資料 の概要	アジア情報の 調べ方案内	AsiaLinks	アジア情報機関 ダイレクトリー	刊行物	アジア情報室 について
-----------------	-------------	-----------------	-----------	--------------------	-----	----------------

所蔵資料の概要

更新日:2009年7月2日

アジア情報室所蔵資料の概要をご案内します。

国立国会図書館所蔵のアジア言語資料

アジア情報室の所蔵資料、議会・法律関係資料の所蔵について、児童書(読み物、絵本など)の所蔵についてご案内しています。

所蔵資料の検索

アジア情報室が所蔵する資料の検索方法のご案内です。

対象地域による所蔵資料の概要

アジア全般、中国、韓国・北朝鮮、モンゴル、東南アジア、南アジア、中東・北アフリカ、中央アジアといった、対象地域による所蔵資料のご案内です。

資料種別による所蔵資料の概要

資料の種別毎に概要をご案内しています。
図書、年鑑、雑誌、新聞、電子資料、コレクション

雑誌・新聞のタイトルリストはこちらです。
年鑑リスト 雑誌リスト、新聞リスト

図3 所蔵資料の概要 (<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/collection.php>)

アジア情報室で開架している雑誌・新聞は、対象地域・資料種別ごとに、タイトルの一覧を作成している。そのため、次の【事例①】のような場合に便利である。

【事例①】 現在、上海で発行されている中国語新聞を読みたい。アジア情報室では、どんな新聞を所蔵しているのか。

【調べ方①】

「所蔵資料の概要」の一番下にある「新聞リスト」をクリックすると、新聞リストの一覧が表示されるので、その中から「中国関係資料：継続受入新聞リスト（中国大陸発行）」を選択する。最後に、地域名から「上海」をクリックすると、アジア情報室所蔵の上海発行新聞の一覧が表示される（図4）。

【東部】				
地域 Province	紙名 Title	出版地 Pl. of Pub.	言語 Language	請求記号 Call no.
上海	解放日報	上海	中国語	Z91-44
	新民晩報	上海	中国語	Z91-AC21
	文匯讀書週報	上海	中国語	Z91-AC91
	文匯報(上海)	上海	中国語	Z91-3
	聯合時報	上海	中国語	Z91-AC90
江蘇	新華日報	南京	中国語	Z91-AC82
安徽	安徽日報	合肥	中国語	Z91-AC88
浙江	浙江日報	杭州	中国語	Z91-AC87
江西	江西日報	南昌	中国語	Z91-AC83
湖北	湖北日報	武漢	中国語	Z91-AC78
湖南	湖南日報	長沙	中国語	Z91-AC89

このページの先頭へ 

図4 アジア情報室所蔵資料の概要：中国関係資料：継続受入新聞リスト
（中国大陸発行）
（http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/asia-02data-chn-news-list-chn.php#04_01）

3. アジア情報の調べ方案内

「アジア情報の調べ方案内」（図5）は、カウンターや電話などで問い合わせの多いテーマについて、検索方法や参考資料、Web情報源などを紹介する

トップ>アジア諸国の情報をさがす>アジア情報の調べ方案内>アジア情報の調べ方案内

アジア情報室
の利用案内

所蔵資料
の概要

アジア情報の
調べ方案内

AsiaLinks

アジア情報機関
ダイレクトリー

刊行物

アジア情報室
について

アジア情報の調べ方案内

更新日:2010年1月 6日

中国・韓国などのアジア全域(日本を除く)と、中東・北アフリカ地域に関する情報の調べ方を分野別にご案内しています。

[政治・法律・行政](#) [経済・産業](#) [社会・労働・教育](#) [歴史・地理・哲学・宗教](#) [地名・地図](#) [芸術・言語・文学](#) [科学技術](#) [学術一般](#) [新聞](#)

政治・法律・行政

- [アジア各国の議会の女性議員数](#)
- [アジアの国の対日関係](#)
- [韓国の選挙情報の調べ方](#)
- [朝鮮民主主義人民共和国\(北朝鮮\)の国家予算](#)
- [中華人民共和国の法令の探し方\(中国語\)](#)
- [中華人民共和国の法令の探し方\(日本語\)](#)

図5 アジア情報の調べ方案内
(<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/research-guide-asia.php>)

コンテンツである。2009年12月現在、計96のテーマを掲載しており、「政治・法律・行政」「経済・産業」「歴史・地理・哲学・宗教」「学術一般」など9つの分野に大別している。

アジアに関する様々な情報は、冊子体の資料からだけでなく、インターネットサイトからも入手できることが多い。そのため、当コンテンツでは、当館所蔵資料だけではなく、Web情報源も紹介するように努めている。その一例が次の【事例②】である。

【事例②】 2007年12月に韓国で行われた第17代大統領選挙において、都市ごとの得票率を知りたい。有用な資料やWeb情報源がないか。

【調べ方②】

「アジア情報の調べ方案内」の「政治・法律・行政」の上から3番目にある「韓国の選挙情報の調べ方」をクリックすると、ページが遷移し、韓国の選挙

韓国の選挙情報の調べ方

更新日:2009年11月13日

韓国において、全国規模で行なわれる選挙としては、大統領選挙、国会議員選挙、地方選挙の3種類があります。大統領選挙は5年ごと、国会議員選挙と地方選挙は4年ごとに実施されます。地方選挙では、広域自治体と基礎自治体のそれぞれ首長、議員の計4つの選挙が同時に行なわれます。それぞれの選挙結果を調べるのに有用な情報源を紹介します。(【】内は当館請求記号です。ウェブサイト最終アクセス日:2009.11.12)

【(1)『CLAIR REPORT』(自治体国際化協会)

韓国の各選挙の概要や政党別・地域別の当選者数などについて、日本語でまとめられている資料としては、自治体国際化協会が発行する『CLAIR REPORT』があります。この資料は、海外の情報について、さまざまな分野を扱っており、1995年以降の韓国の各選挙について解説する号も発行されています。いずれも東京本館所蔵です。ウェブ上でも閲覧できます(http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/)。

<大統領選挙>

●第15代大統領選挙

『大韓民国の第15代大統領選挙について』(第167号)(自治体国際化協会 1998【AK4-251-G2】)
http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/cr167m.html

図6 韓国の選挙情報の調べ方

(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-77.php)

情報を調べるのに有用な資料やWeb情報源の一覧が表示される(図6)。

日本語資料としては『大韓民国の第17代大統領選挙』(CLAIR REPORT第327号 2008)、朝鮮語資料としては『第17代大統領選挙総覧:2007.12.19施行』(中央選挙管理委員会選挙状況チーム 2008)があることが分かる。また、インターネットサイトでは、韓国中央選挙管理委員会の「第17代大統領選挙管理システム」(<http://www.nec.go.kr:7070/pdextern/index.html>)があることが分かる。

これらいずれかの情報源を参照することで、第17代大統領選挙における都市ごとの得票率を確認することが可能である。

4. AsiaLinks—アジア関係リンク集—

「AsiaLinks—アジア関係リンク集—」（図7）は、アジアを中心とした56の国・地域の有用なWeb情報源へのリンク集である。収録対象地域は東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、中東・北アフリカに及び、2009年12月現在の総リンク数は、約7,700である。

収録対象は、アジア各国・各地域の行政機関、研究機関、各種データベース、ニュースサイト、ポータルサイトなどであり、これらのホームページに、

トップ>アジア諸国の情報をさがす>AsiaLinks>AsiaLinks -アジア関係リンク集-

[アジア情報室の利用案内](#)
[所蔵資料の概要](#)
[アジア情報の調べ方案内](#)
[AsiaLinks](#)
[アジア情報機関ダイレクトリー](#)
[刊行物](#)
[アジア情報室について](#)

AsiaLinks -アジア関係リンク集-

更新日:2009年9月14日

機関から探す	国・地域から探す			テーマから探す
政府機関など	アジア全般			書誌・所蔵 出版情報 雑誌記事・論文 学位論文 新聞記事
国際機関 立法機関 行政機関 司法 政党 大使館 地方自治体	東アジア 韓国 北朝鮮 中国 香港・マカオ 台湾 モンゴル	南アジア パキスタン インド バングラデシュ スリランカ アフガニスタン ネパール モルディブ ブータン	中東・北アフリカ トルコ キプロス イスラエル イラン エジプト シリア レバノン ヨルダン イラク サウジアラビア	政府刊行物 ビジネス・企業情報 統計 人物 民族・歴史・宗教 地名・地図 規格・特許 科学技術一般 芸術・文学 言語・辞書 方言
文化施設	東南アジア フィリピン インドネシア	中央アジア グルジア アルメニア アゼルバイジャン	サウジアラビア クウェート イエメン オマーン バーレーン	
学術機関・団体 大学 研究機関 学会	東ティモール マレーシア シンガポール ブルネイ			

図7 AsiaLinks—アジア関係リンク集—
 (http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/asialinks.php)

アドレス入力なしでダイレクトにアクセスできる。インターネットで調べものをしたいが、どのサイトを見ればよいか分からない、というようなときに、AsiaLinksは大いに活用できる。

AsiaLinksは、アジア情報課職員がレファレンス業務の過程で見つけたインターネットサイトを掲載することが多いが、多くのサイトから、職員が信頼できると判断したサイトを選択して掲載している。定期的にリンク切れがないかのチェックを行うほかに、有用なサイトが見つかった場合は、早急に更新している。

AsiaLinksの特長を挙げていくと、第一に、アジアを中心とした56の国・地域に及ぶ広大な地域を収録対象としている点がある。国・地域によってインターネット普及度が異なり、リンク数は異なっているが、どの国のページについても、レイアウトには一貫性を持たせている。

第二に、「国・地域から探す」「機関から探す」「テーマから探す」の3つの索引を設けて、膨大な数のリンク先を体系的に整理している。

「国・地域から探す」では、収録対象となっている56の国と地域から探すことができる。「機関から探す」では、「行政機関」「研究機関」「書店・出版社」「サーチエンジン・ポータルサイト」など18のカテゴリから探すことができる。「テーマから探す」では、「書誌・所蔵」「学位論文」「法律」「ビジネス・企業情報」「統計」など18のテーマから探すことができる。

まず「国・地域から探す」から国・地域を選択し、その後「機関から探す」又は「テーマから探す」から、機関の種類又は調べたいテーマを選択すれば、求めるサイトへ簡単にアクセスできる。

第三に、一部のサイトについて、利用者の参考になるように、日本語訳や簡単な解説を付している。例えば、外国の行政機関のホームページにアクセスしたいときに、現地語での名称が分からなくても、日本語訳から求める行政機関のサイトにアクセスできる。また操作が複雑なデータベースには、そのサイトでどういったデータを得られるのか、データを得るためにどこをクリックすればいいのか、などの解説を付している。

第四に、ページの末尾に、「国立国会図書館関連ページ」「アジア情報室関連ページ」の項目を設け、国立国会図書館ホームページ上の関連ページへのリンクを提供している。例えば、「機関から探す」の「新聞・ニュースサイト」のページでは、各新聞社へのリンク集に加えて、アジア情報室所蔵新聞リストの掲載ページや、新聞記事の検索方法を紹介したページなどへのリンクを設け、利用者の参考となる情報を同時に提供している。

実際のAsiaLinksの使用例として、次の【事例③】がある。

【事例③】 インドの州ごとの人口統計を調べている。有用なWeb情報源はないか。

【調べ方③】

「AsiaLinks—アジア関係リンク集—」の「国・地域から探す」から「インド」をクリックする。画面が遷移した後、「テーマから探す」から「統計」をクリックする。すると、インドの統計を調べる際に有用となるWeb情報源の一覧が表示される（図8）。

南アジア全体

- ▶ [The Digital South Asia Library-Statistical Information](#)  (英)
“Statistical abstract relating to British India”の1840年から1920年分をpdfファイルで提供。さらに各国の現在の統計サイトへのリンクもある。

インド

- ▶ [インド国勢調査 / Census of India](#)  (英・ヒンディ)
- ▶ [統計・計画実施省 / Ministry of Statistics and Programme Implementation](#)  (英・ヒンディ)
左側メニューに「中央統計局 / Central Statistical Organisation」へのリンクがある。
- ▶ [インド準備銀行 / Reserve Bank of India](#)  (英・ヒンディ)
日次～数年次の金融統計を検索、ダウンロードすることができる。
- ▶ [予算・経済概観\(財務省\) / Union Budget & Economic Survey \(Ministry of Finance\)](#)  (英)
1996/97年以降の政府予算案と、1957/58以降の「Economic Survey」を見ることができる。

図8 統計：南アジア（<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/statistics-south.php>）

インドの統計が調べられるWeb情報源として、「インド国勢調査 / Census of India」（<http://www.censusindia.gov.in/>）、「統計・計画実施省 / Ministry of Statistics and Programme Implementation」（<http://mospi.nic.in/>）及び「インド準備銀行 / Reserve Bank of India」（<http://www.rbi.org.in/scripts/>

statistics.aspx) などがあることが分かる。インドの州ごとの人口統計については、「インド国勢調査」のサイトで調べることが可能である。

5. アジア情報機関ダイレクトリー

「アジア情報機関ダイレクトリー」(図9)は、アジア言語資料やアジア関係資料を所蔵する国内機関を一覧にしたダイレクトリー(名鑑)である。

アジア情報課では、国内のアジア情報関係機関間の連携・協力を図るため、アジア資料を専門に扱う図書館等が参加する「アジア情報関係機関懇談会」を毎年1回開催している。この懇談会において、国内のアジア情報関係機関の所在および所蔵資料の概要が分かるものが必要だという声があがり、これが「アジア情報機関ダイレクトリー」を作成する契機となった。

2004年7月から日本全国のアジア言語資料又はアジア関係資料を所蔵する機関に調査票の送付を開始、その回答を元にデータを作成し、さらに各機関に記載内容を確認した上で、2005年3月に72機関のデータを公開した。

トップ>アジア諸国の情報をさがす>アジア情報機関ダイレクトリー>アジア情報機関ダイレクトリー

アジア情報室 の利用案内	所蔵資料 の概要	アジア情報の 調べ方案内	AsiaLinks	アジア情報機関 ダイレクトリー	刊行物	アジア情報室 について
-----------------	-------------	-----------------	-----------	--------------------	-----	----------------

アジア情報機関ダイレクトリー

更新日:2009年7月4日

アジア情報機関ダイレクトリーは日本国内のアジア関係資料、アジア言語資料を所蔵する機関のダイレクトリー(名鑑)です。

- [アジア情報機関ダイレクトリーについて](#)
- [参加機関一覧\(五十音順\)](#)
- [凡例](#)
- [問い合わせ先](#)
- [サイトマップ](#)
- [パンフレット\[PDF:378KB\]](#)

図9 アジア情報機関ダイレクトリー
(http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/directory.php)

これまで中国、イスラームなど地域に特化したダイレクトリー、網羅的なダイレクトリーの中の一部としてアジア関係機関を検索するものは存在していたが、アジア関係機関だけを包括したダイレクトリーは存在していなかった。アジア情報機関ダイレクトリーの公開により、国内でのアジア関係資料の分布について、定量的な把握が可能になったといえる。各参加機関からも、所蔵調査のレファレンスを受けた際、自館に所蔵がない場合は、類縁機関を紹介するために当ダイレクトリーを活用していると、高い評価を得ている。

公開当初の参加機関数は72機関であったが、その後、アジア関係資料を重点的に収集・提供している機関の把握に努め、収録機関数の拡充を図ってきた。2009年12月現在の収録機関数は、国立図書館1、公共図書館18、大学図書館99、専門図書館39の計157機関である。

アジア情報機関ダイレクトリーの目的は2つある。1つは、国内におけるアジア資料を所蔵する機関を総覧し、利用条件、所蔵資料等の紹介を行うことにより、利用者の研究資料等へのアクセスを容易にすること、もう1つは各機関の所蔵資料の量、特色などを明確にすることにより、国内における資

トップ>アジア諸国の情報をさがす>アジア情報機関ダイレクトリー>機関名から探す>か行>国立国会図書館関西館アジア情報室(京都府)

アジア情報室の利用案内	所蔵資料の概要	アジア情報の調べ方案内	AsiaLinks	アジア情報機関ダイレクトリー	刊行物	アジア情報室について
-------------	---------	-------------	-----------	----------------	-----	------------

国立国会図書館関西館アジア情報室(京都府)

更新日:2009年12月10日

名称
国立国会図書館関西館アジア情報室

英語名
Asian Resources Room, Kansai-kan of the National Diet Library

住所
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

図10 アジア情報機関ダイレクトリー「国立国会図書館関西館アジア情報室」
(<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/000.php>)

料の分布状況を把握し、各機関の蔵書構築に資することである。

アジア情報機関ダイレクトリーは、ホームページ掲載という利点を生かし、データの随時更新を行っている。各機関からのアンケート回答による定期的な更新のほかにも、各機関が新たなアジア関係サービスの提供を始めたときなどは、記載内容を即時に更新している。

図10が、アジア情報機関ダイレクトリーの各機関のメイン画面である。掲載項目は計24項目で、住所、URLなどの基本情報のほか、下の方にスクロールしていくと、開館日/開館時間、利用条件、サービス内容などの利用情報、所蔵資料統計、アジア関係コレクションの解説などが表示される。またURLやOPACにはリンクを張り、直接アクセスできるように工夫している。

アジア情報機関ダイレクトリーには、「機関名」「所在地」「機関の種類」「収集資料の対象地域」「所蔵資料の言語」の5つの索引がある。

例えば、アラビア語資料を所蔵する機関を探したいときは、「所蔵資料の言語から探す」の「アラビア語」をクリックする。すると、アラビア語資料を所蔵する機関の一覧が表示される。この中から見たい機関名をクリックすると、当該機関のページに遷移し、詳細な情報を確認できる。

自宅近くの機関を探したいときは、所在地から探す方法が便利である。その一例が次の【事例④】である。

【事例④】 福岡に住んでいるが、近くに中国語資料を所蔵している機関はないか。

【調べ方④】

「アジア情報機関ダイレクトリー」の「所在地から探す」から「九州・沖縄」をクリックすると、九州・沖縄所在の10機関が表示される（図11）。この中から各機関名をクリックしていけば、各機関の中国語資料の所蔵状況を確認することができる。

福岡県下では、九州大学附属図書館、財団法人国際東アジア研究センター、台湾貿易センター福岡事務所、財団法人福岡アジア都市研究所都市政策資料室、福岡市総合図書館の5機関が中国語資料を所蔵していることが分かる。

九州・沖縄(10件)

- [九州大学附属図書館\(福岡県\)](#)
- [熊本大学附属図書館\(熊本県\)](#)
- [\(財\)国際東アジア研究センター\(福岡県\)](#)
- [佐賀県立図書館\(佐賀県\)](#)
- [台湾貿易センター福岡事務所\(福岡県\)](#)
- [長崎大学経済学部東南アジア研究所\(長崎県\)](#)
- [\(財\)福岡アジア都市研究所都市政策資料室\(福岡県\)](#)
- [福岡市総合図書館\(福岡県\)](#)
- [立命館アジア太平洋大学ライブラリー\(大分県\)](#)
- [琉球大学附属図書館\(沖縄県\)](#)

図11 アジア情報機関ダイレクトリー「九州・沖縄」
(<http://rnaui.ndl.go.jp/asia/directory/location/kyusyu-okinawa/>)

6. おわりに

以上、①所蔵資料の概要、②アジア情報の調べ方案内、③AsiaLinks－アジア関係リンク集－、④アジア情報機関ダイレクトリーの4つのコンテンツを取り上げて説明してきた。

その他にも、「刊行物」のコンテンツでは、アジア情報課の広報誌『アジア情報室通報』のバックナンバーを掲載している。また「アジア情報室について」の「アジア情報研修」のコンテンツでは、図書館職員向けに毎年開催しているアジア情報研修の過去のテキストを掲載している。これらのページも併せてご利用いただきたい。

アジア情報課では今後もコンテンツの拡充に努め、アジア情報発信サービスの強化に力を入れていく。ご意見・ご要望があれば、azia@ndl.go.jpまでぜひお寄せいただきたい。

(わたなべ じゅん 関西館アジア情報課)